

ナラ枯れ防除効果調査事業

●奈良県におけるナラ枯れ被害の拡大

【事業の内容】

① 枯損木



従来の処理 伐倒・燻蒸

- 世界遺産・天然記念物が危ない
- 景観への悪影響
- 生態系の攪乱
- 道路・人家への倒木・落枝

- 被害の収束、枯損被害の回避方法の確立
- 資源の再利用

新たな展開

ア) 伐倒・搬出 ペレットや薪等燃料として再利用

資源の有効化



イ) きのこ原木(シイタケ、マンネンタケ・マイタケ・ヤマブシタケ)として再利用(自家消費、ボランティア、地域活性化)

被害木の常圧殺菌



② 穿入生存木



従来の処理 ビニール被覆 再穿入による枯損が問題化



新たな展開

粘着素材の利用

ア) カシナガホトケイによる再穿入防止



③ 激害防除

従来の対応なし

新たな展開

被害拡散防止
文化財等の保護

ア) おとり木



イ) カシナガトラップ



ウ) 忌避剤の効果試験

事業の検証

カシノナガキクイムシの密度低下と被害の収束

+

防除機構の構築、資源の再利用